

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701236		
法人名	医療法人 恵仁会		
事業所名	慈花苑・けやき荘		
所在地	〒039-0201 青森県三戸郡田子町大字田子字風張20-21		
自己評価作成日	平成26年9月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>誤嚥性肺炎の防止、口腔機能低下防止を目的として、平成22年11月より、歯科医師による居宅療養管理指導を受けています。コミュニケーション能力向上の研修会を行い、認知症高齢者への支援をより深めて傾聴から寄り添いの技術を身に付けて行こうと取り組みをしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>町内の中心部に位置し、川が近くに流れているほか山も近くにあり、自然豊かな環境にある。ホールからは近くの中学生の登下校の様子が眺められる。ホールにはテーブルといす、ソファなどが配置され、利用者は好みの場所でくつろぐことが出来る。各居室の入り口には、居室につけられている名前の草花の造花が飾られており、目印になっている。同建物内で共用型認知症対応型通所介護を提供している。理事長である医師は県外で勤務しているが、定期的に来所し、食事を共にするなどしてスタッフとの意見交換を行なっている。歯科医師が定期的に訪問しており、個々にあった歯ブラシや口腔ケアについて助言を受けている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念は、ホールと事務室・玄関入り口正面に掲示し基本理念に基づいて判断するように職員一同心がけている。	開設当初に設定した事業所独自の理念を掲げている。玄関やホールに掲示しており、新人職員には入職時に指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事には、出来る限り参加している。当事業所でも自治会の協力を得ながら、地域交流会を行っている。又、町内会の回覧担当を受けています。	町内会に加入している。事業所の夏祭り、芋煮会には近隣住民も多数参加する。町のケーブルテレビで敬老会の様子がプライバシーに配慮した形で放映された事がある。保育園との交流やキャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座も開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての、勉強会を事業所で実施した。研修会や講演会のチラシ、ポスターを玄関に添付し、広報活動の一つとして行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現在の入居者の状況などを報告している。また、メンバーからの情報を得て、運営に活かせるように、努力している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事の報告等を行なっている。メンバーには他事業所の職員もおり、運営に対しての助言を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、町の職員も参加しているし、入所判定会等にも参加して頂いている。必要に応じて、アドバイスをさせて頂いている。	事業所の空き状況等を伝え、町の担当から居宅事業所にも伝えてもらっている。緊急的な利用希望の情報がもたらされることもあり対応している。入所判定会議には町の担当が参加し、事業所とともに協議している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、内部研修会や日常の介護で気がついたことは、その都度職員に話し、身体拘束をしないケアをしている。	月1回の内部研修を実施しているほか、外部研修にも参加し、伝達研修を行なっている。マニュアルはいつでも見られるように保管している。気づいた点は管理者に報告が上げられ、朝のミーティング等で全体に伝えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者のあざ等を発見した場合、事実確認をしている。虐待防止について、職員全員が周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は、現在利用している利用者はおりませんが、概要について職員には内部研修等で知識を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明をし理解した上で契約を締結している。また、締結後でも疑問点については再度、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来た時を利用し、要望や意見があれば聞いている。推進会議でも報告し、反映できることはしている。	支払いを窓口払いとし、来所する機会を作っている。遠方の人には電話で聞き取りしている。ケアに対する要望や、行事、食事などへの意見等に対応している。責任を持って対応できるよう、管理者や主任が主に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出た提案は、出来る限り反映するようにしている。	管理者が交代して間もないが、それを好機とし、意見を聞き取っている。管理者も出来るだけ多くの意見を吸い上げるよう努めている。理事長は県外に在るが定期的に来所があり、スタッフからも直接要望等を伝えることが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境作りや介護に必要な物品の購入など、職員が働きやすいように努めている。勤務表作成には職員の公休希望を出るだけ受け入れるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講演会へできる限り参加させている。研修に参加した職員は、職員会議で報告をしている。詳細については、報告書を提出し、全職員が回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等への参加を通じて、同業者との交流ができる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時、利用者の話を聞きながら、不安なことがあれば解消して、安心して入所できるように努めている。事業所の見学が出来るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも入所前に面談して、要望や意見があればできる限り添える体制を取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のニーズ、本人のニーズが必ずしも一緒ではないので、本人のニーズを考え、本人・家族も納得して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係をできるだけ早く築けるように、入所者紹介をして話しやすくなるよう環境作りに努力している。しかし、慣れ慣れしなくなったりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆は深く、私達職員では埋めることのできない事がたくさんあるので、情報を提供し、ご家族からの意見を参考にしたり、時にはご家族が直接話したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように、利用者の要望があれば、その場所へ行ってみる事もある。	行きつけの美容院や商店街に普段から出かけている。兄弟がほぼ毎日訪ねてくる方もおり、家族が宿泊することも出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や、ソファーでの座る場所を考え、利用者同士が、関わりを持ちやすいように、誘導している。軽体操や口腔体操又軽作業を共同で行い共感持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約が終了しても、次の受け入れ先や家族からの要望にも、可能な限り応じる用に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメントで、本人の意向、及び家族からの情報を得ながら、暮らし方の希望を聞き、出来る限り添えるようにしている。	入居時にそれまでの担当ケアマネージャーからの情報提供をもとにアセスメントを行っている。普段のケアの中で意向を把握し、毎日の経過記録を通して変化を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での情報は、ケアマネや家族から得ている。入所後も、本人との会話等からの情報をもとに生活の中に取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを、大切にしている。その日の気分・体調など考慮し、出来ることは本人にして貰っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員でのケア会議開催し、面会時等で家族からの意見や、日々の介護情報を総合して介護計画を作成している。	毎月全職員でカンファレンスを行ない、意見を出し合いながらプランを作成している。主治医から、水分量のアドバイスや薬剤について助言を頂いている。家族へプランを説明する際、家族の意向を直接書き込んでもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを行っているかは、毎日の記録に記載している。変化のあるときは、職員間で情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の急な体調不良・外出や、ご家族の都合など、その時々状態に応じたサービスを行い、柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や民生委員の方からは協力を頂き、又近隣の方々からも協力して貰いながら、安全に生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医に受診できるように支援している。必要に応じて、往診をお願いしたり、歯科医なども受診している。	それぞれのかかりつけ医を受診し、家族対応の他、職員が受診対応することもある。緊急時には近隣の内科医師の協力が得られる。週1回、歯科医師の訪問があり、全利用者が月2回、口腔ケアを受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師に相談し、アドバイスを貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、まめに面会をして、医師、看護師からの情報を得るようにしている。又、医療協力体制についても契約をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期の対応について、十分説明をし確認書を貰っている。	看取りを行っており、希望の際には近隣の医院の支援により最期を事業所で迎えることが出来る。浴槽への入浴が困難になった際にはストレッチャーでシャワー浴を行ない対応する。医療処置については事業所で対応できる範囲を家族に説明し、理解を求めている。看取りに際し希望する家族には泊り込みでの付き添いも出来る体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、救命救急の講習を受けている。急変時の対応について事務所に掲示している。実践の訓練はしていないので、今後、取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回避難訓練(夜間・日中想定)を行っている。近隣の方々にも、自治会の総会などでご協力をお願いしている。	夜間の火災想定で通報装置を使用して避難訓練を行なっている。年1回は消防の立会いも得ている。非常時には町内会や消防団からの協力の体制もある。福祉避難所の指定も受けている。普段から排泄用品を備蓄しており、冷蔵庫の食糧も3~4日分保存されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは、利用者の羞恥心など考え、さりげなく行っている。居室には、のれんを活用しプライバシーを確保している。職員は守秘義務や個人情報について理解している。	カンファレンスはホールで行なっているため、利用者の名前ではなく番号で呼び、利用者が耳にしても分からないよう工夫している。台帳は事務所の中の外来者の目に触れない場所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に応じて、日常生活の中や外食時等には、自己決定出来るような場面作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調やペースに合わせて、過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類は、出来る限り利用者を選ぶようにしている。又、同じものばかり着ないように促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好は把握している。食事の準備、後かたづけ等、出来る方とは一緒に行っている。	利用者の状況により準備の手伝いは難しいが、食後の茶碗拭きなどの後片付けは利用者が自発的に行っている。畑の野菜の収穫は利用者と共にしている。時にはにんにくラーメンの出前や弁当の配達を利用し、事業所以外で作られた食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、残量を記録している。残量の多い時は、体調の変化がないか確認している。水分は十分摂れる様に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による居宅療養管理指導を月2回行って、口腔状態を診て貰っている。食後必ず義歯の洗浄を声掛けし、出来ない部分は、介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見て、出来る限りトイレで排泄するように声掛けをしている。	現在はすべての利用者がトイレで排泄している。夜間のみポータブルトイレを居室に設置している方も数名いる。トイレ後、ズボンの引き上げが不十分な方もいるが、終了時を見計らってさりげなく整容している。様々な種類の飲料を準備し、楽しみながら水分補給することでスムーズな排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をまめに行ったり、繊維質の多い物を提供する。また、適度な運動をするなど、個々に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	毎日入浴できる環境にあり、体調や本人の希望に合せ、入浴している。また、洗身は個々の能力に合わせて、支援している。	基本的に毎日午前中に入浴を行なうが、汚染時など必要な際にはその都度対応する。マンツーマン入浴であるが、希望時には気の合う利用者が一緒に入ることもある。浴槽への入浴が困難な方にはストレッチャーを使用してのシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせて、休息を取っている。夜間、十分睡眠がとれるように、日中の離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや、誤薬がないよう確認している。処方が変わった場合は、職員全員がわかるように記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の力を活かした役割を与えている。外苑の散歩、ドライブなどで気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではないが、外出したい利用者がいれば支援している。季節を感じる為、全員参加のドライブを年2回行っている。	希望時には出かけられる体制にある。家族の協力も得ながら、墓参り、娘宅への外泊なども行なっている。近隣の商店街への買い物には日常的に出かけている。公園の花見には行事として出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に合わせた、金銭管理をしている。家族と相談の上、金額を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に電話が来た場合は、子機を使いブライバシーに配慮している。また、電話をかけたい時は、間違い電話で相手に迷惑がからないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるように、照明や室温、湿度などに気を付けている。観葉植物、観賞用金魚をホール内に設置して心穏やかに安らぎを感じるよう工夫している。	ホールや各居室に温度計を設置し室温を管理している。加湿器には消毒作用のある水を使用している。ホールには金魚の水槽があり、ソファ、テーブルといすなどをコーナーを分けて設置していることで好みの場所でくつろぐことが出来る。ホールの一角のフローリングスペースには観葉植物や庭石を配置し、庭園の雰囲気を作っている。床掃除は日中3~4回実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを何カ所か設置、食卓テーブルにも個別に、利用でき、気の合った利用者同士が雑談できる場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、布団・家具・小物など本人の使っていた物を持ってきてもらうようにしている。	備え付けはベッドのみで、タンス等は自宅から持ち込んでもらっている。居室内で観葉植物を育てたり、小型掃除機で自分で居室の清掃をしたりする方もいる。テレビは本人の好みに合わせ設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ等には手すりがあり、玄関にはスロープがある。手すりを使っての歩行訓練や、トイレでの立ち上り等が安全に出来るように工夫している。		